



南葛西第二小学校だより



潮風

教育目標「自立と貢献」～学力保障の南二小～

令和7年9月30日

江戸川区立

南葛西第二小学校

第6号



スポーツから学ぶこと

9月には、国際的なスポーツ大会がテレビ中継されました。なかでも、東京で開催された「世界陸上」は、夢中になってテレビ観戦をした人も多かったと思います。世界新記録更新、何十年ぶりの快挙と報じられ、各競技のトップ選手達の活躍の様子が迫力ある映像を通して私たちに伝えられました。

「男子棒高跳び」スウェーデンのアルマンド・デュプランティス選手は、これまでに13回、世界記録をマークし、オリンピックと世界選手権とともに2連覇してきた世界王者です。大会3連覇を早々に決め、記録との勝負になった後は、世界記録より1cm高い6m30cmに挑戦しました。2回失敗して迎えた最後の3回目は、力強い助走から高く跳び上がり、体がわずかにバーに触れながらもクリアして自身14回目の世界新記録をマークしました。観客からは大きな歓声が沸き上がり、デュプランティス選手もコーチ陣と抱き合ったり、雄たけびを上げたりして喜びを表していました。

「女子マラソン」初出場の小林香菜選手が7位に入賞しました。小林選手は、スタート直後から先頭でレースを引っ張りました。25キロ付近では、ペースが上がったため、一時は11位まで後退しました。それでも粘り強く力強い走りを見せ、徐々に順位を上げて2時間28分50秒、7位でフィニッシュして入賞を果たしました。世界選手権の日本勢としては2019年の7位以来、3大会ぶりの入賞でした。沿道での大きな声援、チームメイトの支えが粘り強さの原動力であると感じました。

紹介した二人の選手に限らず、多くの選手が舞台に立つまでの長い間、自分自身の課題に立ち向かってきました。負けそうになっても諦めず、苦労や悲しみを乗り越え、ひたむきに努力する姿が感動を呼びます。そして、力の源(みなもと)として、共通しているものは何か。それは、自分だけのためではないということ。支えてくれた家族やチーム関係者への感謝の思い。応援してくれている誰かに喜んでほしい。そんな気持ちが最後まで挫けない心として、選手を支えていると感じました。

10月25日(土)には、令和7年度第43回運動会を開催します。運動会は、日頃の体育科学習での学びを発揮する場です。運動に親しみ、共に高め合い、競い合いながら、健全な心と体を育てられるよう指導しています。子供たちが一生懸命に練習した成果をぜひご覧ください。そして、精一杯走り、演技する姿に温かい声援と拍手をお願いします。

目標や夢に向かって努力する中で、挫けそうになったり諦めてしまいそうになったりすることがあると思います。そんな時、子供たちが、支えていてくれるたくさんの人たちへの感謝の気持ちを思い出して、頑張り続けてくれることを願っています。

10月の予定

【 10月の目標 】 楽しい学級を作りましょう



月:金:朝学習 火:フツ化物 水:朝会(各週) 木:集会

日	曜	行 事	各学年の時間					
			①	②	③	④	⑤	⑥
1	水	都民の日						
2	木	安全指導 南二道場 16	5	5	5	6	6	6
3	金	読み聞かせボランティア下学年	5	5	6	6	6	6
4	土							
5	日							
6	月	委員会 校外学習なぎさ公園①	5	5	5	5	5	5
7	火		5	6	6	6	6	6
8	水	朝会	4	4	4	4	4	4
9	木	避難訓練 南二道場 17	5	5	5	6	6	6
10	金	前期終了日 通知表配布日	5	5	6	6	6	6
11	土							
12	日							
13	月	スポーツの日						
14	火	後期開始日 教育実習始(4の1) 通知表回収日	5	6	6	6	6	6
15	水	運動会係活動⑤⑥	4	4	4	4	5	5
16	木	集会 南二道場 18	5	5	5	6	6	6
17	金	体育大会⑥	5	5	6	6	6	6
18	土							
19	日							
20	月		5	5	5	5	5	5
21	火	運動会全体練習	5	6	6	6	6	6
22	水	朝会 運動会係活動⑤⑥ 南中チャレンジザドリーム始	4	4	4	4	5	5
23	木	南二道場 19	5	5	5	6	6	6
24	金	運動会リハーサル 前日準備⑥	4	4	4	4	4	5
25	土	運動会	5	5	5	5	5	5
26	日	運動会予備日						
27	月	振替休業日						
28	火	南中チャレンジザドリーム終	5	6	6	6	6	6
29	水		4	4	4	4	4	4
30	木	集会	5	5	5	6	6	6
31	金		5	5	6	6	6	6

〈教師のつぶやき〉 秋の「潮風」。「すがすがしい」を全身で感じよう。

by 佐藤 叡